

作成日 平成27年4月8日

サークル名	3階西病棟 Bチーム		発表者	富士原 則子
			リーダー	近森 晃
部署	3階西病棟		サブリーダー	富士原 則子
活動期間	開始:平成26年7月4日 終了:平成27年3月19日		メンバー	新田 浩子, 森井 葉子, 永岡 菜穂子, 米谷 雅子, 吉川 修平, 中場 恵梨華, 佐々木 利勝, 岡本 千秋, 原田 美香, 滑佳 代子, 大西 由華
会合状況	会合回数 11回 1回あたりの会合時間 60分			
所属長/推進メンバー	櫻 裕子	所見欄		
レビュー担当者				

テーマ

喉頭全摘術を受ける患者へスタッフ全員が必要な説明と指導ができる。

テーマ選定理由

当院は県北で唯一、喉頭全摘手術ができる施設である。看護師が初めて喉頭全摘術を受ける患者を受け持った時、身体障害者手帳の申請、術後2階病棟へ転棟することの説明や、術後の安静保持の必要性、退院に向けての生活指導など、説明や指導しなければいけない項目やその内容について、誰に聞いてもはっきりとした回答が得られず、病棟内へは指導用パンフレットなどのツールもなく、計画的な説明や指導ができず、その内容も十分であったのかどうか分からないという現状があった。喉頭全摘の症例数は非常に少ないが、侵襲の大きな手術であり、術後のボディイメージの変化、生活の変化、声を失うことへの喪失感など、患者やその家族にとっては人生を変える大きな出来事である。このような患者に対して、少しでも安心して当院で手術を受けていただき、少しでも不安なく退院していただけるように、必要な説明や生活指導をスタッフが全員できる必要があると感じたため。

現状把握

I. 過去5年間、当院で喉頭全摘術を受けた患者9名のカルテの記録から、①説明・指導内容②使用したツール(パンフレット)の有無を検索した。

	説明・指導内容	記録の件数	パンフレットでの説明件数	パンフレットの有無
①	手術オリエンテーション	4	1	あり
②	2階病棟転棟オリエンテーション	2	0	あり
③	身体障害者手帳申請についての説明	2	0	なし
④	恵声会の説明	3	1	なし
⑤	吸入・吸引器購入についての説明	3	0	なし
⑥	吸入・吸引器使用方法についての説明	5	0	なし
⑦	気管孔ケアについて	3	1	なし
⑧	退院指導	4	2	なし
⑨	入浴について	2	0	なし
⑩	食事について	2	0	なし
⑪	術後の安静についての説明	1	0	なし

Ⅱ. 過去カルテ検索の結果から、喉頭全摘術を受ける患者に必要な説明と指導内容の14項目について、病棟スタッフの理解度を知るためのアンケート調査を行った。

質問1. 身体障害者手帳の申請で必要なものが言えますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中3人であった。

質問2. 術後、安静期間や食事についての経過を説明できますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中4人であった。

質問3. 2階病棟へ転棟のオリエンテーションができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中14人であった。

質問4. 吸入・吸引器の購入について必要なものが言えますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中4人であった。

質問5. 患声会についての説明ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中8人であった。

質問6. 人工喉頭購入時に必要なものが言えますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中3人であった。

質問7. 入浴方法についての指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中14人であった。

質問8. 気管孔ケアの方法について指導できますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中10人であった。

質問9. 食事についての指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中9人であった。

質問10. 排泄についての指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中14人であった。

質問11. 吸入・吸引方法の指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中14人であった。

質問12. 外出や旅行時の注意点について指導できますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中7人であった。

質問13. 緊急連絡方法について指導できますか？の質問について「はい」と答えたのは28人中10人であった。

質問14. 退院時、外来へ申し送る内容が分かりますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中4人であった。

目標設定

3階西病棟のスタッフが喉頭全摘術を受ける患者にツールを使用した説明と指導が理解できる。28名のスタッフへ行った喉頭全摘術を受ける患者にツールを使用した説明と指導についての理解度を調査したアンケート14の質問項目(28×14=392)のうち、「はい」と答えた118項目の割合は $118 \div 392 = 30.10$ であった。すなわち、理解度は30%であった。

喉頭全摘術を受ける患者の看護の経験がないスタッフ6名(新人3名, 異動スタッフ2名, 新採用1名), を除く22名のスタッフの理解度を100%にしたいと考え, 説明・指導の理解度を $(28 - 6) \div 28 = 78.5$, 78%に上げることを目標値として設定した。

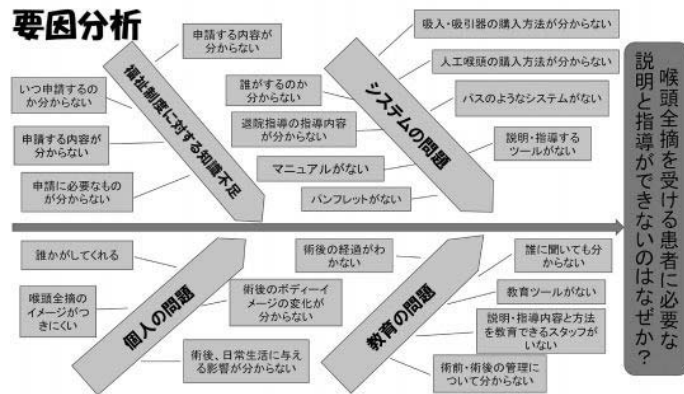
要因解析

ブレインストーミング法で

喉頭全摘を受ける患者に必要な説明と指導ができない要因を出し合い、フィッシュボーンにまとめた。その結果、

- ①福祉制度に対する知識不足
- ②システムの問題
- ③個人の問題
- ④教育の問題

この4つの要因に分類された。



対策立案

喉頭全摘術を受ける患者に必要な説明と指導をスタッフ全員が理解するためには

- ①スタッフが必要な説明と指導内容をすべて把握する必要がある
- ②スタッフが生活指導の内容と方法を理解する必要がある
- ③スタッフが喉頭全摘術と術後経過や術後管理を理解する必要があるとし、

第2段階で具体的な項目をあげ、第3段階で項目ごとに対策を上げた結果、実用性・持続性・効果の判定を行った結果、全て15点となり、大きくわけて3つ

- 一覧できるオーバービューの作成
- 各説明と指導パンフレットの作成
- 勉強会の開催を行うことにした。

対策立案



対策実施

Wat	Why	Who	When	Where	How	
喉頭全摘術を受ける患者に必要な説明・指導内容が全てわかるもの	スタッフが必要な説明と指導内容をすべて把握しもなく実施するために	富士原 中場 大西	12月までに	リンクの部屋	作成する	
身体障害者手帳申請続きの説明用紙を	スタッフが全員が迷わず同じ説明ができるため	新田・森井				
術後経過についての説明用紙を		富士原 中場 大西				
2階病棟転棟用オリエンテーション用紙		富士原 中場 大西				
吸入・吸引器購入についての説明用紙を		新田・森井		病棟所定の位置	院内統一の用紙を準備する	
恵声会とは何か、目的や参加方法が分かる用紙を		近森・岡本				
人工喉頭購入について説明できる用紙を		新田・森井		リンクの部屋	作成する	
生活指導 入浴方法		永岡 米谷 吉川 清 佐々木 原田				
						気管孔ケア
						食事指導
						排泄
						吸入・吸引方法について
						外出や旅行
緊急連絡先						
外来への申し送り			富士原 中場 大西			
喉頭全摘術の勉強会を	スタッフが喉頭全摘術を理解し術後経過や術後管理を理解し清潔指導にいかすために	近森・岡本		病棟	耳鼻科医師へ勉強会の依頼と開催を行う	

効果確認

I.有形効果

- 質問1. 身体障害者手帳の申請で必要なものが言えますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問2. 術後、安静期間や食事についての経過を説明できますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問3. 2階病棟へ転棟のオリエンテーションができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問4. 吸入・吸引器の購入について必要なものが言えますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問5. 恵声会についての説明ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問6. 人工喉頭購入時に必要なものが言えますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問7. 入浴方法についての指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問8. 気管孔ケアの方法について指導できますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問9. 食事についての指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問10. 排泄についての指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問11. 吸入・吸引方法の指導ができますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中27人であった。
- 質問12. 外出や旅行時の注意点について指導できますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問13. 緊急連絡方法について指導できますか？の質問について「はい」と答えたのは28人中28人であった。
- 質問14. 退院時、外来へ申し送る内容が分かりますか？の質問に「はい」と答えたのは28人中27人であった。

吸入・吸引方法の指導ができますか？退院時、外来へ申し送る内容が分かりますか2項目についてそれぞれ一人ずつ分からないと回答している。ほかの説明・指導内容については、ツールを使用し「できる」「分かる」の回答が得られた。

14の質問項目で28人へアンケート調査を行った結果、「はい」と答えた項目390項目の割合は $390 \div 392 = 0.994$ 99%であった。

3階西病棟のスタッフが喉頭全摘術を受ける患者にツールを使用した説明と指導についての理解度は30%から99%に上がった。目標値79%は達成できた。

II. 無形効果

・対策前のアンケートフリーコメントはほとんどの項目で未記入で、実際の説明や指導の場でも十分な知識で実施できているとは言えず、回答の中からは説明・指導内容にばらつきがみられた。対策後のアンケートフリーコメントからは、ほとんどのスタッフが全ての項目に回答しており、その内容もパンフレットに沿った内容や注意事項が記載されていた。パンフレットを作成したことで、説明と指導内容にばらつきがなく、新人からベテランまで経験を問わず、スタッフ全員が一定のレベルで患者や家族へ説明・指導できると考えられる。

III. 波及効果

- ・作成していく過程でいろいろ自分の勉強になった
- ・皆で一つのことに取り組むことができ楽しかった
- ・事例を改めて振り返ることができた
- ・他職種との連携がとれた
- ・喉頭癌の病態の理解が深まった
- ・この1年を通してチームで1つの物を形にできた
- ・喉頭全摘患者が日常生活でどのようなことに注意しなければいけないのか学べた
- ・喉頭全摘患者の退院までの流れが分かった

標準化

	なぜ	いつ	どこで	誰が	何を	どうする
標準化	喉頭全摘術を受ける患者が、必要な説明と指導を受け安心して手術を受け、退院を迎えるために	4月	病棟	サークルメンバー	オーバービューとパンフレット	作成する
教育		新入職・異動時	病棟	病棟スタッフ	オーバービューとパンフレット	使用方法や説明・指導方法を教育する
管理		必要時	病棟	近森・富士原	リンクの部屋「3西」フォルダ	点検・修正する

・作成した説明・指導用パンフレットは、病棟スタッフ全員がいつでも自由に使用できるよう、リンクの部屋に保存し管理することとした。

・パンフレットや、オーバービューは患者への説明と指導に使用するだけでなく、病棟スタッフへの教育ツールとしても使用することで、経験年数を問わず一定のレベルでもれのない説明と指導ができる。

・オーバービューを作成したことで、喉頭全摘を受ける患者に必要な説明と指導内容が全て分かり、もれることなく説明と指導ができる。

まとめと今後の課題

本年度の活動期間内に、喉頭全摘術を受ける患者の入院がなかった。今回作成したオーバービューやパンフレットを使用して、実際に喉頭全摘術を受ける患者に対して説明や指導はできなかった。よって、効果判定は病棟スタッフへ行った、理解度を確認するためのアンケート調査の回答のみであった。

目標値は達成できたが、今後は実際の患者指導を通しての効果判定を行っていく必要がある。